

照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会 会報第34号
2013年7月20日



川霧 猛暑続きの今年7月、久しぶりに上流から雨がやってきて、雨とともに川霧が発生、珍しい景色を見せてくれました。
(綾南川にて 撮影 坂元守雄)

研究 照葉樹林での森林療法を考える …2-3 p

- | | | | |
|--|----------------------------|--|-------------------------------|
| | 第6回 照葉樹林研究フォーラム 報告4p | | H24年度 てるはの森の会 活動報告6-7 p |
| | 復元への道 vol.15 p | | 事務局だより8 p |

発行:てるはの森の会(綾の照葉樹林プロジェクト事務局) 〒880-0014宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.com> (フェイスブックも情報発信しています!)

照葉樹林での森林療法を考える

東京農業大学 森林総合科学科 教授 上原 巖

森林療法とはなんでしょうか？

まずみなさんにおたずねします。

「森林療法」とはなんでしょうか？ また、みなさんが「森林療法」という言葉を聞いて、連想、想像されることにはどんなことがありますか？

森林療法とは、照葉樹林をガイドすること、森林浴でリフレッシュすること、照葉樹林観光で村おこし、「科学的根拠」をもとに森歩きをすること、森林ガイドをすること、などとお答えになる方もいらっしゃるかも知れません。森林療法は、病気や障害をはじめ、心身の不調を抱えた方が、お金をかけずに、自分の身近な森に出かけて過ごし、不健康な森であれば、その森林の手入れをし、森林と人間がともに健やかになることを目指して生まれました。つまり特別な森を選ばず、地域の身近な森に出かけて、誰でもができるものだったのです。

しかしながら、それがいつの間にか、「森林療法」の名前を巧みにアレンジした類義語が派生し、「これで地域振興ができる！」「新たな地域ビジネス！」「もっとお金を！」「もっと有名に！」「もっと宣伝を！」などといった「振興事業」に変形されていき、今では地域の方々に大金の初期投資をはじめ、営業ノルマを課す事業もあらわれてしまいました。おまけに「科学者のお墨付き」までがつくものもあり、過疎やこれといった産業がない市町村からお金を巧みに吸い上げていく展開の仕方は、かの発電開発事業とも類似しているとも言えます。ビジネス社会の歪んだ流れから脱し、人間性を取り戻すことが目的だったはずの森林療法が、むしろビジネス事業の権化と変容してしまったのですね。このことは現在の私たち日本人が、いかに拜金主義の考え方染まってしまっているかも示していると言えます。けれども、お金や名利を求めることからは、安らぎは得られません。森林はそのことを無言で、しかし確実に語っています。

森林療法とは、お金をかけずに身近な森に出かけて、自分の健康づくりを行う。あるいは心身に障害や疾患を抱えた方々が森林にひととき出かけることによって、自らの生きがいや体力、自己治癒力を取り戻す。「病んでいる」森林があれば、そのような森林を少しでも健やかにしていくこと。それもまた森林療法なので

す。いわば、森林と人間がともに健やかになることを目指していく。それが、森林療法であることをどうぞ忘れないでください。

そして「科学的」という言葉。今ほどこの言葉が便利に使われる時代はありません。しかし、その「科学的」という言葉が実際にはどんなことを指しているのか、またどのようなレベルのことでそう言っているのか、そもそも本当にそれが「科学的なことなのかどうか」といった検証には、ほとんどの人は言及しません。「科学的」という言葉はブラックボックスでもあるのです。「大学の偉い先生が、科学的にこの森は癒し効果があると言っていた。だからここはいい森なのだ」そんな意識の方が多いのではないかでしょうか？でも、その癒し効果の調べ方はどんな方法だったのでしょうか？そして、本当にその森には「科学的な癒し効果」があるのでしょうか？万人にとって、その「癒し効果」はあるのか？ 残念ながら、万人にとって癒し効果のある森林は、実はどこにも存在しません。

照葉樹林での森林療法に望まれること

東アジア、日本の照葉樹林は、昔から人による利用が行われてきた森林です。これらの森林には、比較的に単純な構造の森林から多様度の高い複雑な森林まで、様々なものがあります。そしてそれに伴って多様な動植物が暮らす場でもあり、私たち人間にとっては、古来より木材をはじめ、木の実や山菜などの食料や、飲料水、農業用水の供給、気象緩和、水土保全など、毎日の暮らしに不可欠な恵みをもたらしてくれる場になってきました。けれども、昭和30年代のエネルギー革命後からは、里山的に利用していた照葉樹林が劇的に利用されなくなり、中途半端な状態で放置、放棄され



照葉樹林の中では、いつの間にか光を求めます。

ている森林が増加してきました。スギ、ヒノキなどの人工針葉樹林に転換された森林もあります。まず私たちはこのような現在の照葉樹林の姿を直視するところからはじめる必要があるでしょう。

森林療法とは、森林と人間がともに健やかになっていくことと先に述べました。

では次に、その森林療法を照葉樹林ではどのように行ったらいいのでしょうか？最も大切なことは、照葉樹林の森林生態系を大切にするということです。本来の健全さを持った照葉樹林の姿こそが、私たちの心に懐かしさや生きる勇気を与えてくれ、同時にその森林から生まれる空気、林間を吹き抜ける風、気象緩和作用、清冽な水などが私たちの身体に平衡を取り戻させ、活力を与えてくれるのであります。里山的に利用されてきた照葉樹林もありますが、宮崎県の「綾の森」の奥山のように、人間の手をうかつには入れていけない、人類の財産として守るべき照葉樹林もあります。それは、木材価格、観光換算などの経済界とは別次元の崇高な資源です。

また、林内が暗い、湿度が高い場所が多いなど、照葉樹林ならではの環境条件もあります。これはブナなどの落葉広葉樹林帯と異なり、年間を通して、林冠を葉が覆っているため、そのような条件をもたらすことになります。さらに最近では、鹿の頭数の増加、移動と一緒にヤマビルが多くはびこる場所も増えてきました。しかしながら、あえて言うならば、その照葉樹林やヤマビルに罪があるのではありません。そのような照葉樹林で、一様な「癒しプログラム」を企画し、短絡的にお金をもうけようとする人が軋轢を引き起こすのです。林床に寝そべって林間の青空を見上げる。落ち葉のプールに身をうずめる。林間で気功を行う。そんなプログラムができる森林はあります。しかし、他所の森でそれを行っているからと言って、照葉樹の森でそれらが同じようにできるとは限りません。むしろ、足を踏み入れてはいけない森林、場所もあるのです。照葉樹の暗さや、濃い緑を活かした佇み方、過ごし方があるはずです。

ブナ帯で生まれた私にとって、照葉樹林の中の世界は、「光を求めていく世界」に感じられます。林内の陰翳と、林冠、林間から垣間見る日光の輝きやきらめきは実に対照的です。ひととき静かに照葉樹林内で過ごしては、林外に出て、その照葉樹林の姿を眺める。交互にこうした時間を過ごしていくことが、照葉樹林に

も、私たち人間に対しても、相互理解を深め、生きるエネルギーをもたらすことになるのではないか？陰陽の環境の場を行き来することによって、心身を活性化し、自己の立ち位置を確認していくのです。

現在は何でもかんでもが「マニュアル」の時代です。すぐにマニュアルに頼ろうとする風潮がありますが、照葉樹林を訪れる人もまた多様です。一人一人が違う目的、思いを持ち、訪ねて来ます。その来訪者に対して、同じように「ガイド」をし、同じようにアイスブレーキングをし、同じ話をします。それはナンセンスそのものです。運動目的で来られる方もいれば、生きもの観察が目的で来る人もいる、そしてそっと静かにしておいてほしいという方もいることでしょう。

また、そもそも森林療法はガイド料を支払わなければできないものでしょうか？もちろんお金は大切なものであり、経済活動は人間の営みの一つです。けれども、2年前の大震災では財産ばかりか、家も家族も仕事もなくしてしまった方が大勢います。働きたくてもよい仕事に就けない人、安い給料で長時間の労働を強いられている人、そして抱える障害などのために森に行きたくても行けない人もいます。そのような社会的な弱者の方こそが真っ先に癒されること、それも自然な形でそれができうること、それが照葉樹林での森林療法の現在の課題だと思います。そして、もしお金をいただくのだとしたら、それに見合うサービスの提供が当然必要です。でも、そうしたサービスの提供ができる方が今一体どれくらいいることでしょうか？看板だけ、システムだけが先行でできても、有名無実のものが実際のところでは、一過性のブームで終わることでしょう。

これまで地域の森林を活用した森林療法の実践例では、高血圧症の方々が定期的に森林散策を行うことによって血圧を健常値に近づけることができ、通院回数、投薬量も減ったことから、地域の医療費削減ができたという事例、また山村に暮らす認知症の患者さんが、かつて自分が働いていた山林に出かけて昔を回想しながら、コミュニケーションに変容をもたらした事例、病院隣接にしていた放置林を活用し、認知症の患者さんのリハビリテーション、作業療法を行っている事例など、様々な良いこころみが行われてきています。

照葉樹林を活用した森林療法のユニークなこころみが生まれることを願っています。

(長野県・うえはら いわお)

照葉樹林の保全とユネスコエコパーク

○○○○○○○○○○○○ 第6回 照葉樹林研究フォーラム 報告 ○○○○○○○○○○○○

会員 林裕美子

2013年7月6日に3年ぶりに照葉樹林研究フォーラムを開催できました。ユネスコの生物圏保存地域(ユネスコエコパーク:以下、エコパーク)では、保護地域のまわりに人が利用・居住する地域が広がり、地元の人たちが身近な自然と向き合いながら保全を進めていきます。今回の研究フォーラムでは、照葉樹林の保全活動がエコパーク指定による地域振興をどのように後押しできるか、逆にエコパーク指定が照葉樹林の保全活動にどのような効果をもたらすかを皆で考えることを目的としました。

まず、1960年代から行なわれてきた照葉樹林の保全運動の歴史と、現在の保全活動の中心的組織である「綾の照葉樹林プロジェクト」の目的とプロジェクトが2005年に始まるまでの経緯が語られました。森の保全には、地元の有機農業の推進やそのほか数多くの地域活性化事業が深く関わってきました。また、綾町の照葉樹林は国有林が大半を占めますが、一部は県有林(25世紀の森など)と町有林で、市街地周辺には民有林が里山として広がります。木材価格の低迷によって山林の手入れが行き届かなくなつたと言わざるが、国有林と県有林では、未来の森を作るために間伐や植林が蕭々と行なわれています。里山でも良い森を作っていく方策を考えなければならない時期にきています。木材を売って採算をとるだけでなく、森林環境として森を利用するアイデアが必要とされています。

また、地域環境資源との調和を目指す自然生態系農業は、綾町にとっては欠かせないもので、土作り、畜産業との連携、農産物の評価システムの構築など、綾ならではの歴史があります。最近は、自然と触れ合う面白さを体験できる活動(ネイチャーゲーム、フットパスによるマップ作り)や、市民調査(森の林床調査、森の川の調査)も行なわれるようになりました。これから森づくり・街づくりを見据えた、生物多様性地域戦略(いのち豊かな綾づくりプラン)づくりや、綾町役場の若手・中堅の職員グループによる自主的な研究・提言活動も進められています。

今回のフォーラムでは、話題の数が14もあったので発表時間を5分にしました。これには、時間が短すぎてわかりにくかった、あるいは簡潔明瞭で飽きなかったなど、賛否両論がありました。動物のこと、民族学・文化人類学のこと、もっと具体的な研究内容、教育現場での研究の活かし方、といった内容を取り上げてほしいとの要望もありました。開催回数や内容について、実行委員会で考えていきたいと思います。

参加者に記入してもらったアンケートの回答からは、子供たちに自然の良さを伝えていくことや、里山を長く維持していくことの大切さが伝わったように感じました。また、自分がエコパークの担当者だったらやってみたいことを尋ねる項目への回答からは、自然観察ツアー・体験ツアーの要望が高いこともわかりました。研究フォーラムでも、以前のように次の日に各種ツアーを計画することも考えていきたいと思います。

私はかねがね、照葉樹林研究フォーラムを、照葉樹林(自然・文化・その他)に関わることを調べた人たちが自分の成果を発表したいと思わせるような場にしたいと考えてきました(話題を募集するということ)。まだまだ途は長いですが、まだあきらめていないので、どのように運営していったらよいか、アイデアをお寄せください。今回は、綾の照葉樹林プロジェクトメンバーの強力なサポートがありました。今後、フォーラムの企画・運営に参加したいという方がいれば、柔軟な実行委員会をつくるよう努力しますので、ぜひ一声おかけください。

(宮崎市・はやし ゆみこ)



約110名が
参加した。
大会終了
前、2014年
第2回 国際
照葉樹林サ
ミットを屋
久島に引き
継ぐ報告を
した。

復元への道

vol.1

綾の森の奥ではどんなことが行われて、どのくらい活動は進んでるの?100年
がかりの綾プロの活動は目に見えにくく、わかりづらいものです。そこで、1年間の
綾の森の活動を小さな紙面にひとまとめにしました!H24年度綾プロ事業報告
書を参考にまとめました。毎年積み重ねることで、復元の様子が見えて
くる事を願って、第1号がスタートです!

農務局 下村ゆかり

●国有林●

①観察・調査

1) 緑の回廊エリア(エリア3、5)

森林環境調査 植物の高さ、葉が覆っている割合、種の数の変化を調べました。5年前の調査と比較して高木では大きな変化はありませんでしたが、高さ2m以下の草・木では芽生えの数や種類に大きな変化がありました。

動物調査 樹木が成熟している区域では、そうでない区域に比べては乳類や鳥類が多く見られました。成熟した森では、様々な高さの木が織り交ざっているので、エサや棲みかが豊富だと推測されます。

2) 緑の回廊エリア及び復元エリア(3、5、6)

<間伐とシカ柵内外の芽生えに対する影響調査>

間伐をすると、芽生えの数や種類は一時的には増えますが、その後減少する傾向がありました。H22年度に設置したシカ柵の内外では、芽生えの数に大きな差はありませんが、植物種数は増えています。シカ柵内では、ナチシダの減少や、コガクウツギの増加など、シカの影響を受ける種に変化が見られました。H23年度に定性間伐をした場所では、高木層構成種の木の芽生えが多く、天然更新が期待されています。芽生えと環境の関係については、傾斜や間伐後の経過年数が関係していることがわかりました。

<間伐を試験的に行い、シカ被害と芽生えの発生調査>

試行的に間伐した区域でシイ・カシ類の芽生えが確認されました。4プロットのうち3プロットで、先駆性樹種(カナクギノキ、カラスザンショウ、モチノキ)の埋土種子が確認されました。H22年度に定性間伐された場所は、幼木、芽生えが少しでした。シードトラップを8基設置しました。伐採区域の周辺や、残材を片付けした区域にはシカが侵入していましたが、片付けしなかった区域へは侵入しませんでした。

<種子を播いて芽生えがあるか試験的な調査>

採った種子は竹筒で保護して試験的に埋めましたが、コストと時間が必要です。

シカの密度調査 H20年度に綾南林道で実施されたときの密度は15頭/km²でしたが、今回は40頭/km²と推定され増加傾向にあります。調査結果によると、シカの年間増加数252頭/年にに対し捕獲実績は153頭/年と低くなっています。

3) 保護林エリア(エリア1)

<ボランティア間伐エリアでの市民林床調査>

平成19年にボランティア間伐を実施した箇所で、高さ1.3m未満の種名、高さ、葉が覆っている割合の再調査を、市民の協力を得て行いました。

綾の沢調査 水生昆虫成虫用のトラップを設置して、ボランティアで経過観察をしました。

●町有林●

観察・調査 斎人人工林からかつての林相へ復元するエリア

2008年に林床調査を実施している調査地で、近く間伐事業が行われることがわかり実施される前に種名、高さ、被度の再調査をしました。

②人工林から照葉樹林への復元作業

1) 保護林エリアと復元エリア(エリア1, 5)

スギ人工林を抜き切りし、照葉樹林へ復元する作業を行いました。間伐面積は約17ha / 2,218haで列状間伐をしました。

2) 環境教育等への利用(エリア9)

人工林を抜き切りし、照葉樹林へ復元する作業を行いました。間伐面積は約56ha / 708haで列状間伐をしました。

3) 保護林エリア(エリア1)

ボランティアによる間伐作業をしました。

平成24年11月23日、綾町川中国有林にて、綾中学生ら23名が参加しました。間伐面積は約0.25haで、定性間伐をしました。

平成25年2月16日、綾町川中国有林にて、宮崎市内の親子ら11組32名が参加しました。間伐面積は約0.16haで、定性間伐をしました。

③森林整備

1) 持続的林業経営エリア(エリア10)

間伐作業等に必要な林業専用道、延長約1,000mの整備をしました。

2) 持続的林業経営エリア(エリア11)

低木・草本を生やし土壤を保全する水土保全機能を高めるために間伐作業をしました。間伐面積は約59ha / 1,330haで、列状間伐をしました。(用語解説)

※エリア2、4、7、8、については、H24年度は未実行です。

※定性間伐…不良木などの除去と光環境を考え一本一本の立木を見ながら伐採木を選定し行う

※群状間伐…試験的に実施した間伐方法であり、伐採しないエリアをブロック状に残して行う

※列状間伐…植栽木の列などに沿って、機械的に伐採木を選定し、斜面に対して縦・横・斜めなど筋状に行う

※林業専用道…森林施業のために利用する恒久的公共施設であり、林道を補完し、森林作業道と組み合わせて、森林施業のために使う道。

●県有林● 獣害防除、修景整備

針・広混交林化を進めるエリア

1) 25世紀の森(カヤとスギの複層林)の作業道草刈りなどをしました。実施面積は3.23haです。

2) 林道板谷線などで発生した崩土の除去作業をしました。

3) 照葉樹林展望コースの修景整備をボランティアでしました。

植物群落保護林エリア

1) 照葉樹林・植物の病害虫等被害状況を把握するため、県営林監視人による月1回の巡視を行いました。

※照葉樹林への復元エリア、SGECの森林認証に基づく林業経営エリアについて、H24年度は未実行。

H24年度 てるはの森の会 活動報告

毎年少しづつ、当会の活動は広がってきています。どんな活動を行ってきたのかをまとめ、いつも応援してくれださっている皆さんにご報告いたします！

H24年度は綾町が「綾ユネスコ エコパーク」に登録されるという大きなニュースがありました。そんな中、エコパークの核心・緩衝地域の管理・運営を担う綾の照葉樹林プロジェクトでは2013年4月1日から第2次(2013～2022年)連携・協働に向けて協定が再び締結されています！これからも応援をよろしくお願いします！

事務局の運営

綾の照葉樹林プロジェクト 事務局

綾の照葉樹林プロジェクト関係機関との調整、問い合わせ対応、事業の企画運営などを行いました。年2回の連携会議、月1回開催の連絡調整会議の連絡・調整、資料作成等の準備を行いました。

綾生物多様性協議会 事務局

環境省と綾町の助成金補助を受け、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会の3者で協議会を設立しました。住民参加型の生物多様性地域戦略を策定するために、啓発の講習会開催、広報、エコパーク全域を対象とした生物調査、ビオトープ作成のための調査を行いました。

森の整備・調査

綾の森の沢調査

水生昆虫成虫用のトラップを設置して、ボランティアで経過観察をしました。ヤマネが死んでいるのを捕獲したので、剥製にして宮崎県立博物館へ収めました。

照葉樹林トレッキングコース整備

H23年度に大吊橋の南に延びる尾根沿いに設置した「照葉樹林展望コース」の案内看板の補修や、新たなルート整備の調査、下草刈り整備をボランティアのみなさん延べ15名と行いました。

げんだぼの森 整備

綾町三本松原のげんだぼの森で、草刈り整備全2回延べ26名にご協力いただきました。また初めて「冬の生きもの観察会」を行いました。多様な生きものが観察できる森にしていきたいです。

木育事業 事務局

宮崎文化本舗が林野庁の助成金補助を受けた事業の事務局を行いました。国産材を使うことが森林整備や環境の維持に貢献し、人にもたらす効果について分かりやすく伝え、広めるために、「木育年間講座」等を開催してその理解と浸透を図りました。実行委員会5回、木育年間講座計5回の他、綾プロの間伐体験や日南市で林业体験をしました。

綾エコパーク推進協議会 事務局

宮崎県の助成金補助を受け、綾町、東京大学、日本自然保護協会、宮崎文化本舗、てるはの森の会の5者で協議会を設立しました。地域づくり、観光、環境保全を一体的に推進するため産学官民が連携し、普及啓発や観光プログラム作りを実践するための計画策定及び普及啓発活動をH23、24年の2カ年行いました。H24年度は綾ユネスコエコパーク登録記念式典や広報、専門委員会準備会開催の他、フットパス先進地視察、古屋ふれあい調査聞き書き集を作成しました。

市民林床調査

人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林で市民参加の林床調査を行っています。第1回目はH24年11月23日に、平成19年11月に調査したプロットについて種名・高さ・被度の再調査を行いました。第2回目はH25年2月15日に悪天候のためスタッフのみで、H20年3月に調査したプロットについて種名・高さ・被度の再調査を行いました。

広報

綾ユネスコエコパーク 登録記念式典

H24年9月1日に綾町公民館文化ホールにて開催しました。周辺4市町村関係者を含め町内外から約600名が出席し、自然との共生した取り組みを続けることを約束しました。

森と人をつなぐ

照葉樹林復元ボランティア間伐作業 (木こり体験)

第1回目は平成24年11月23日に綾中学生21名と㈱ソーラーフロンティア環境安全部2名が参加して行いました。

第2回目は平成25年2月16日に木育年間講座に参加していた小学生親子11組26名と木育サポートー6名が参加して行いました。

木こり体験の他、森を散策したりもっくん木工体験をしました。

照葉樹林ガイドボランティア

綾の照葉大吊橋周辺遊歩道2kmを照葉樹林ボランティアガイドの案内で散策しました。1年間で14回延べ277名が参加しました。その他、上畠ふれあい体験ツアーを2回延べ45名の参加で行いました。

視察対応の受け入れ

日本全国各地より、照葉樹林そしてエコパークに登録された綾を視察に来られました。12回延べ95名の対応をしました。

ふれあい調査 古屋、杁道

古屋地区では聞き取り調査の内容ができるだけ忠実に残した資料を「聞き書き集」として再度編集し発行しました。杁道地区でH24年度から新たにスタートし、8月にアンケートを依頼、9月30日の「三世代交流」で結果発表、H25年1月28日にふれあいまんだらを作成するところまで進みました。

情報発信

照葉樹林だよりを年に4回発行し、会員へ発送した他、宮崎市内、綾町内の施設に置かせていただきました。

寄付を進めるために、ワンコイン500円のご寄付でてるはの森のイメージキャラクターのシールを特典にプレゼントすることになりました。ホームページやフェイスブックでも情報発信を続けています。

綾の照葉樹林プロジェクト事業説明

2013年1月15日(火)19時から、綾町高年者研修施設にて、綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会を約50名の参加者と開催しました。

参加者から多くの意見を募るために、①環境②観光 ③教育 ④町づくり ⑤自由の5つのテーマ毎にグループワークを行いました。

照葉樹林環境教育講座

子どもたちに貴重な照葉樹林の理解を深めもらうために、綾小・中学校で実施しました。H24年11月22日に綾小学4年生ら54名と、綾神社と野首遊歩道でネイチャーゲームを体験しました。H25年2月25日に綾中学2年生ら75名は来日されたユネスコ関係者から「ユネスコエコパークとユネスコの活動」について講演を聞きました。

地域づくりワーキンググループ運営

綾町でフットパスコースを構築するために、全11回延べ117名の参加で現地調査や会議を進めた他、先進地熊本県美里町を視察しました。

綾町生涯学習講座のお手伝い

綾町民を対象に、6月から毎月1回河野耕三先生を講師に招き、主に里を歩きながら植物を中心とした自然や歴史、文化について話を聞きました。全10回134名が出席しました。

倉輪地区活性化事業のお手伝い

倉輪地区の人口減少を受けて活性化する事業が綾町で行われました。上畠ふれあいツアー体験へ参加の呼び掛けを倉輪住民に行うなどの協力をしました。

施設の運営

てるは森の驛運営

今年は無料休憩所がある1Fに70インチモニターを設置し、訪れる観光客に森の紹介を行うビデオを制作しました。2Fには綾の木工作家さんの遊具の他、全国各地から木製遊具を集めて木育ひろばをオープンしました。3F軽食堂では綾の食材を使ったメニューで人気です。

事例発表します!

「共生の里づくりを目指して。
綾の森を住民と共に守り、
後世に繋げる活動」
と題して、当会での活動発表をし
ます。ぜひお越しください!

日時:2013年8月27日(火) 19:00~21:00

場所:宮崎駅前K-I-T-E-Nビル3F

みやざき県民協働支援センター

申し込み・お問い合わせ

みやざき県民協働支援センター(担当:桑畑)

〒880-0811

宮崎市錦町1-10 宮崎グリーンスフィア毫番館3F

メール:info@miyazaki-ksc.org

電話:0985-74-7075 ファックス:0985-74-7076



事務局だより

◆てるはの森の会 関連行事

終了した行事

- 5月 17~19日 ロハスアワード・森の美術館出展
21日(火) てるはの森の会 定例会
23日(木) 第2回連絡調整会議
講習会「ホタルが教える生物多様性」
24日(金) 大森岳データロガー回収
30日(木) 杖道ふれあい調査
- 6月 4日(火) 第3回地域づくりワーキンググループ
11日(火) てるはの森の会 定例会
17日(月) 綾町生涯学習講座
18日(火) げんだぼの森 草刈り作業
20日(木) てるはの森の会 監査
26日(水) 第3回連絡調整会議
第18回連携会議
27日(木) 生物多様性再生区域現地調査
- 7月 6日(土) 第6回照葉樹林研究フォーラム
7日(日) 綾ユネスコ エコパーク専門委員会
10日(水) 照葉樹林ガイドボランティア研修
11日(木) いのち豊かな綾づくりプラン 役場ワーキング
12日(金) 生物多様性再生区域モニタリング調査
綾町生涯学習講座
13日(土) 綾ユネスコエコパーク登録記念バット「ガイド」と歩く綾の森」
15日(月) 事例発表「生物多様性地域セミナーin熊本」
18日(木) 第4回地域づくりワーキンググループ

今後の予定

- 8月 3日(土) 分科会協力「ロータリークラブ・インターハクト大会」
11日(月) 綾生物多様性協議会 打ち合わせ
第4回連絡調整会議
環境教育エリア勉強会
6日(火) 熊本県美里フットパス観察
20日(火) てるはの森の会 定例会
27日(火) 観察対応「成田空港地域共生・共栄会議」
事例発表「ヒカルツ・みやざき県民協同支援センター」
29日(水) 杖道ふれあい調査
- 9月 10日(火) 綾町生涯学習講座
12日(木) 綾プロ環境教育エリア観察
13日(金) 環境教育エリア勉強会
第5回連絡調整会議
21日(土) 第5回地域づくりワーキンググループ

綾の照葉樹林写真展 8月17日(土)~31日(土)

会場:綾ふれあい館 (電話:0985-30-7270)

会員で照葉樹林に最も近い上畠地区に住む

小川涉さんが撮りためた綾の写真30点を展示します。

四季折々の表情をご覧ください。(入場無料)



◆ 綾ユネスコ エコパーク登録1周年記念イベント 「ガイドと歩く綾の森」を開催しました!(7月13日)

7月11日の登録記念日から21日までの11日間に、綾町内では様々なイベントが催されました。てるはの森の会では、照葉大吊橋遊歩道のガイドを企画しました♪飛び入り参加者、そして宮崎日大高校生を含めて14名の方が参加しました!



6月18日げんだぼの森で
カヤネズミの巣を発見
しました!

協賛企業



てるはの森の会では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

会員募集中!

	年会費
個人会員	2,000円
家族会員	3,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円